

【渡島管内】 学校司書と地域住民が支える学校図書館（函館市立巴中学校）



函館市内の全小・中学校で学校司書の配備を完了

函館市では令和3年度（2021年度）までに、4年をかけて、市内全ての小・中学校で学校司書の配置・訪問体制を整備しました。現在15名の学校司書が、一人3～5校を受け持ち、拠点校から近隣各校を訪問する形で勤務し、計画的に学校図書館の環境整備を進めています。

CSと連携し、地域人材が学校図書館運営に参画

巴中学校では、学校司書、司書教諭、教員、図書委員に加えて、地域の図書館ボランティア約10人が学校図書館の運営に関わっています。学校司書の勤務終了後は、ボランティアが貸出・返却や生徒の利用を見守ることで、午後4時45分の閉館時刻まで多くの生徒が学校図書館を利用することにつながっています。



【留萌管内】 学校全体でつくる居心地の良い図書館（北海道留萌高等学校）



学校司書による資料の利活用の推進

留萌高等学校では、学校司書である指導実習助手を中心に、学校図書館全体計画の下、各教科の学習に関連する図書や新聞の活用、蔵書のデータベース化による貸出しの管理など、資料の利活用の活性化に取り組んでいます。今後は、道立図書館の協力貸出を活用するなど、学校図書館の機能の充実を目指しています。

生徒による環境整備の充実

図書委員が中心となり、蔵書を紹介するポスターやPOPを作成し、学校図書館内や生徒玄関ホールの図書紹介コーナーに掲示し、校内における親しみやすい読書環境を構築しています。図書展示台の一部は、電気・建築科の生徒が跳び箱を再利用して制作しました。学校図書館の静かな雰囲気や、学校司書との関わりを楽しみにやってくる生徒もいるなど、居心地の良い図書館づくりが進められています。

